

個人質問

政 見 会

D X 推 進、防 災、子 供 の 休 暇 制 度、
人 材 の 交 流、み ど り が 丘 市 有 地

森 建 二 議 員



○ D X の 推 進 に つ い て

問 デジタル・トランスフォーメーション。技術の活用により、市民の皆様は時間をお返しし、職員事務の効率化にもつなげる。ここ数年の、証明書類のコンビニ発行やキャッシュレス決済導入を評価します。マイナンバーカードの保有率は。

答 本年1月、82.8%です。

問 次に公共施設の予約システム導入。スマホ等で予約できれば、わざわざ並ぶ必要もなくなります。以前からの要望ですが、その後いかがか。

答 社会体育施設などにつき、千葉施設予約システムに参加する形で、令和9年4月からの運用開始に向けた準備作業に取り組んでおります。

問 市内拠点でのWi-Fi整備。これも改めて、市民サービス、防災のために必要と考えますがいかがか。

答 整備には、技術的な課題の解決や費用対効果の検討が不可欠です。今後、主要な防災拠点における課題等を整理し、関係部署と連携協議の上、総合的に検討を進めてまいります。

○ 人 材 交 流 に つ い て

問 地方自治体への就職希望者が減っています。民間の活況、働き方の多様化に伴い優秀な人材が来なくなっている。民間の人材に行政の世界に入ってもらえることは重要。市では民間企業との人材交流の実績があるのか、今後どう考えるか。

答 これまで、本市において民間企業との人材交流の実績はございません。実施に当たっては、市業務内での活用方法、ニーズ把握の他、労務管理等の課題、派遣期間の調整といった課題が挙げられます。限られた職員数で行政運営を行っている本市の現状では、早期

に対応を図ることは難しいものと考えます。

行政も経営感覚が必要。検討を。

○ 防 災 に つ い て

問 災害時の情報共有・集約。今どこで何が起きているか知ることが重要。災害時の市の職員間の情報やり取りをどう行っているか。

答 基本は、安全対策課から個々の職員宛てに発するメール通知であり、災害発生に伴う職員の非常参集、避難所の開設をはじめ各種指示事項は、全てこの通知で行っております。職員間の連絡は、各課に配置しております災害対応電話や避難所の開設に携わる職員間において、LINEを用いたグループ間の連絡により対応を図った旨、報告を受けております。

メールと各課の電話とLINEという事、おぼつかないと感じます。ちなみに災害ボランティアセンターを運営中の大網白里市社会福祉協議会では、情報の発信・集約を瞬時に完結できる「キントーン」の導入を図っているとの事。市も情報共有の手法を再考、研究願います。また災害時自主防災組織との連携が上手くいっていない。せっかくの組織、災害時に合理的に動けるよう検討を。

○ 移 住・定 住 政 策 に つ い て

問 みどりが丘の市有地について。市の重要な財産であるこの場所について、現在どのような動きがあつて、どう考えているのか市長に伺います。

市長 みどりが丘地区の市有地につきましては、市街化区域の準工業地域に位置づけており、企業誘致が可能な土地であることから、本市の持続的な発展ならびに市民全体の重要な財産であると認識しております。市では、これまで

千葉県のHPを通じた情報発信や、サウディング型市場調査などにより、積極的に利活用の推進に努めてまいりました。その結果、市有地の一部について、本年7月に食品加工施設を運営したいという企業と賃貸借契約を締結し、8月には、事業者によるみどりが丘自治会への説明会が実施された所です。市といたしましては、新規雇用の創出や税収の増加が見込めるなど、地域の活性化や市全体に効果的な利活用につなげたいと考えております。

この春、みどりが丘自治会で住民アンケートを行いました。市有地に望ましいものとして、商業施設、公共施設、この複合施設と、3つで約6割を占めます。買物や福祉に関する不安が強い。一方で、工場や物流施設、住宅などへの支持は極めて低い。そして自由記入欄には「交流」という言葉が見えます。住民は交流する場所や機会を求めています。現在、豪雨災害の影響が住民が転出する話を聞きます。市民や企業など民間の意見も参考に、多様な観点からの検討をお願いいたします。

○ 教 育・子 育 て に つ い て

問 季美の森小学校統廃合が決まってきた。進捗と、これからの計画は。

答 令和7年度に季美の森小学校区および大網小学校区の保護者説明会を8回開催し、令和8年度は(仮称)統合準備委員会を設置し、統合に向けた協議を進めていく予定です。

関 連 質 問

猪崎 紀 人 議 員

問 統廃合による問題点と、対策は。

答 児童の通学手段に関し、スクールバスの運行を基本とし、運行形態や費用負担について、関係者と協議を行う予定です。このほか、児童の不安を払拭するた

め、季美の森小学校の教職員を大網小学校に配置できるよう要望し、両校の行事を共同で開催するなど、児童の心理的不安の解消に努めます。

○ 防 災 に つ い て

問 今回の豪雨災害は、令和になり3度目の大きな水害です。決して予測できなかった災害ではありません。現在4期16年、長きにわたり市政のトップを続けてこられた市長は、今後どのような政治判断を行い、水害対策を進めようと考えていますか。

市長 大網駅周辺の排水対策については、千葉県が進めている小中川改修事業と市が進める金谷川改修事業に加え、新たに南玉地区幹線排水路の整備が必要と千葉県から示されました。当該排水路の改修など、整備手法の検討を進めているところであります。市内各所における浸水対策は、本市の最重要課題であり、新たな課を設置し、治水対策を重点的に取り組みたいと考えています。

○ 市 長 は 4 期 1 6 年 行 っ て き た 水 害 対 策 が 十 分 だ っ た と 考 え て い ま す か。

市長 県と連携し、市内の排水対策には、様々な障害が発生し、時間がかかったことも事実です。今回未整備の部分で、また災害が発生したことを重く受け止めています。

問 県 と 連 携 し た と の こ と で す が、

市長 国とは金谷川改修事業に、補助事業としてご支援いただいておりますが、今後もしっかりと連携していきたいと考えています。

今回、16年間の水害対策は十分だったと考えていないと受け取りました。経常収支比率が100%となり、これからの災害対策は県や国に助けてもらわなければなりません。今まで以上に、県や国に強く働きかけ、必要な事業や財源を、一刻も早く引当っていただく。

その他、移住者のシビックプライド醸成施策などについて伺いました。

個人質問

現 市 政 は 災 害・財 政・人 口 減 少 等、
も う 行 き 詰 っ て い る の で は な い か。

石 渡 登 志 男 議 員



「市政最大なる責務は、市民の命と財産を守ること」だからこそ、ずっと以前より、市民の皆様方には私の通信や演説にて、また議会の場においてもその旨お伝えしてきた。現状のままに行けば、本市は地震やそれに伴う火災や津波等において多くの犠牲者を生んでしまう恐れがある。それを何故でもくい止めていきたい。以前の千葉豪雨では県内では多くの犠牲者が、本市では亡くなられた方はいなかったが、市民の大事な住宅や車という貴重な財産を守る事が出来ていない。しかも、令和に入ってから8年間で4回、という事は2年に一度大きな災害に本市は見舞われている。これでは被害に遭われた方々はたまったものじゃない。ある被災者の方が言われていたが「心が折れます」と、何度も浸水に遭ったらそんな気持ちになる。テレビ等では連日大網白里市の浸水状況を流し続けていた。本市は「災害のまち」としてすっかり定着してしまっただけかもしれない。そんな自治体に誰が移住してくるのか？市民にとって「悔しさ」と悲しみではなく、「夢と希望」あふれるそんなまちに私たちはしていかなければいけない。今の状態が「住みたい・住み続けたいまち」なのか。命はもちろんの事、市民の大事な住宅や車などの財産を守っていききたい。それが市政最大なる責務だ。人口減少や財政問題、そして大規模な自然災害、まさに「本市存亡の危機」ではないのか。市民の市政に対するこのやり切れない閉塞感にその怒りは頂点に達しているのではないか。ここである閉塞感とは先が見えないという事だ。先が見えないほど人は不安なことではない。

問 車両水没を防ぐため、その緊急避難場所はどこにあるのか。車両避難場所を拡大する考えはあるのか。

答 市指定の16か所の指定避難場所には車両避難可能であり、その他には運動広場、農村環境改善センター、北吉田・みどりが丘市有地、大網高校に車両駐車が可能である。なお、車両避難の場所増設に關しては、市内のみでなく市外を含めた中で民間との協定等を進めていきます。

あ る お 二 人 の 先 生 が 本 市 の 氾 濫 に つ い て 言 わ れ て い た が、ま さ に そ れ が そ の 要 因 で は な い か。特 に 駅 周 辺 は、谷津地形であり、盛土もしている。最初に浸水をもたらしたのは内水氾濫であり、街中にあふれるほどの大雨が降り続き、やがて用水路も氾濫していき、その街中であふれた水が河川にどんどん流れ込んでいることが映像でわかっている。河川の水量が少ない時は水が流れていくのだが、水かさが増していき、やがて水の流れがなくなり、その高さが限界を超えたとき、今度は街中に向かって一気に流れ出ていく。そう、今度は外水氾濫となる。ただ単に、河川工事をして河川幅を広げ、コンクリートのかさ上げ工事をするだけでも防ぐことはかなり困難。内水氾濫をできる限り防ぎ、また、川の水が流れるようにしていかなければいけない。それこそ、県・市だけではなく、国レベルの強力な力を借り、多額な資金の投資を行い、その内・外水の氾濫を防ぐ有効なる対策を講じて行かない限りいつまで経っても解決できない。私が副市長の時、議長と一緒に他県のある地域の地下水路を見てきた。洪水を度々起こしていたが、国の力を借り解決させてきたのだ。